

学校教育目標 やさしく、たくましい子どもの育成(やさしく、たくましく)

よく学ぶ よく遊ぶ 明るくあいさつ 黙って掃除

“子ども、保護者、地域、教職員、みんなが誇りに思い、楽しいと思える学校づくり”

〒801-0833 門司区清滝5-3-21 TEL 331-1708 FAX 331-1709 校長 三栗谷 進



清々しい秋風が吹き、さわやかな毎日が続いています。

すっかり秋らしくなりましたが、朝夕がめっきり冷え込み、体調のすぐれないお子さんが増えてきました。健康管理には十分お気を付けてください。

今回は、学校と家庭の役割について考えてみたいと思います。

子どもの笑顔や真剣な顔！！

秋晴れの好天の中、休み時間になると多くの子ども達が運動場に出て遊んでいます。

ある日の昼休みのことです。遊んでいる子ども達の様子を見ていると、バスケットボールや雲梯、一輪車や竹馬、ボール打ちなどで遊んでいました。この日は、長縄跳びと鬼ごっこが多かったようです。どの子どもも楽しそうです。

鬼ごっこをしている子ども達を見ていると、自分たちで赤帽子と白帽子に分かれていました。運動場いっぱいを使って、走る走る、すぐに汗びっしょりになりました。男の子も女の子も関係ありません。みんなで楽しそうに走り回っていました。

長縄をしている子ども達は、みんな体全体でリズムを取りながら、入るタイミングをはかっています。跳んだ回数を数えながら、リズムよく跳び始めると中には跳びながら一回転するなど、色々なアレンジをしていました。

どの子どもの顔にも笑顔が広がっています。まさに「屈託のない笑顔」でした。みんなで遊ぶ楽しさを実感しているようでした。

昼休み終わりのチャイムが鳴ると、みんなさっと切り上げ、教室に戻って行きました。さすがです。汗びっしょりになって帰ってくる子ども、友達と楽しそうに話しながら帰ってくる子ども、「楽しかったー!!」と言いながら帰ってくる子ども、笑顔がまぶしかったです。

校内にも子ども達があります。読書好きだったり、ちょっと体調が悪かったりと理由はそれぞれあるようですが、ここでも友達と楽しそうに遊んだり、真剣な表情で本を読んだりしていました。真剣な顔がうれしかったです。

一人一人、本当にかわいい子ども達です。

さて、子どもの笑顔や真剣な顔は当然学校だけでは生まれません。家庭での基盤があり、学校での友達関係や自尊感情などから生まれてくると考えています。そこで、学校と家庭の役割について、再度になりますが考えてみたいと思います。

○学校の役割、家庭の役割

小学校は土台づくりの段階だと考えます。

土台づくりに必要なことは何なのかを考えた時、まずは各教科等の基礎的な学力の定着だと思います。そしてもう一つが、仲間づくり、友達関係です。この命題に向けて、教職員一丸となって取り組んでいくことが大切です。現在、学校には多くのことが求められていますが、何を一番大事にするかをしっかりと見極めながら取り組んでいきたいと

考えています。

次に家庭の役割について考えてみましょう。

躰や生活習慣の見直しです。心身共に健康でなければ、健やかな成長は難しいと思います。その基盤は家庭にあるのではないのでしょうか。子どもの健やかな成長の担い手は、家庭が一番であるという認識をもつことです。家族の愛情のもと、生活習慣の形成を助け、「自分にできることは自分です」という態度を育てなければなりません。また、社会規範を教え、家庭や社会の中でのルールを教えなければなりません。勿論、生活様式や子育てに関する考え方も千差万別です。「こうしなければいけない」というものではありません。皆さんお一人お一人が、自信と信念をもって子どもに接していただきたいと思います。

「うちの子は親がいくら言っても聞かないので、学校で厳しく言ってください。」「いくら言っても何にもしないので…。」「仕事が忙しくて、子どもの話が聞けません。」など、家庭の責任を他に任せたり、投げ出したりしていることはないのでしょうか。また逆に、親が何でもしてあげていくことはないのでしょうか。これでは子どもの“力”は育ちません。子どもに手をかける時はしっかりとかけ、体ごと受け止めなければなりません。また、子どもが自分で考え、自分でできるように、子どもとの距離を取りながら、そっと見守り、支えることも大切です。

朝起きて、顔を洗って、歯を磨いて、朝食をとって、あるいはお手伝いをする、親子で会話をする・・・などは、家庭でしかできないことです。

相田みつをさんの「育てたように子は育つ」という詩があります。「子どもの姿は親の鏡」を肝に銘じることが大切です。



○おわりに

我が子を育てるのも大変、そして学校で多くの子どもを教育するのも大変です。それぞれが役割を自覚しながら、そして連携しながら育てていく時代です。

生まれたばかりの赤ちゃんが唯一頼るのは、世界で一人の母親であり父親です。親や家族の愛情をいっぱい注ぎ込む時期です。でもいつまでも親の言うとおりに、思うとおりににはなりません。その時、いかに子離れし、子どもが立ちできるように、側面から支援するかが大切になります。親としては寂しく感じることもあるとは思いますが、「育てたように子は育つ」、子どもを信じて、自分の子ども以外にも目を広げて声かけをし、子どものよいところを見つめながら育てていきましょう。

子どもが自立するためには、自分で考え、自分で判断し、自分で課題解決できる力を備えていることが大切です。また、人に優しく、思いやりの心をもつことも大切な力です。

門司海青小学校区の保護者の皆様と地域の皆様の愛情に包まれ、子ども達は大きな力と心を育んでくれるものと確信しています。

門司海青小学校全ての子どもがよりよく成長し、みんなが笑顔になれるように、そしてみんなが真剣な顔になれるように、これからも学校と家庭、地域が手を携えながら頑張っていきたいと思います。

